NIE実践報告

1．タイトル：世界の国を調べよう

2．学校名

北海道教育大学附属釧路中学校

3．実践者名（代表者名）

村瀬　清史

4．学年

第２学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　１１８名

6．単元（本時の学習課題）名

世界の国を調べよう

7．目標(狙い)

・世界の中のいくつかの国について、地図や統計資料などさまざまな資料を活用し、国・地域の環境条件や他地域との結びつきから、そこに暮らす人々の営みについて意欲的に調査活動に取り組むことができる。

8．評価の視点

・課題を調査する方法を理解し、資料を活用して自分なりの考えをまとめ、交流することで意欲的に課題追究しようとしていたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「世界の国を調べよう」(教科書教材：教育出版)〔社会：１２時間〕

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①調査する国に対しての概要を、教科書を活用して学習する。(各１時間)
　新聞記事の収集(事前)
②収集してきた新聞記事から課題を設定し、解決の道筋を考える。(1時間)
③解決に向けた調査活動を行う。(1時間)
④調査活動を通して課題に対する自分なりの考えを、グループ内で交流する。

(留意点)
・論理的な交流となるよう支援を行う。
・課題を設定した理由、調査活動を通して追究した自分なりの考えを、根拠をもとに発表できるようなワークシートの工夫。
・現在の自分自身の生活と、課題解決する際にどのように結びつくか考えさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・意外と対象国に関する新聞記事があることを知り、日本とつながりが深いことを改めて知った。
・調査活動を通して課題に対してまとめた自分なりの考えを、グループ内の人に伝えることが難しかった。
・新聞を読む際に、日本と世界の国々とのつながりを考えて読むようになった。

12．成果と課題

・学習対象として、新聞記事を自らの興味・関心に基づいて選択させることで、課題設定を行いやすく、解決の見通しを持てやすくなった。
・今を知るためのより身近な資料として新聞を資料として活用することは、生徒たちにとって学習意欲を高め、社会科を学ぶ意義を理解することになった。
・新聞を活用して多面的、多角的に社会的事象をとらえさせるためには、日常からニーズに応じた新聞記事を選択する機会を増やす工夫が必要である。